

肝炎の併発は Crohn 病の経過に 有益な効果を与えるか？

Does intercurrent hepatitis have a beneficial effect on the course of Crohn's disease? : G Vantrappen, G Coremans, J Janssens, et al (Gastroenterology 84: 843-845, 1983)

著者らはウイルス性肝炎併発後、すべての臨床症状が緩解した重症な小腸大腸型の Crohn 病に遭遇した。ベルギーの Leuven 大学病院で 4 年間に経験した 235 人の Crohn 病を review したところ、3 人が急性肝炎を併発していた。これら 4 症例を対象に、肝炎の併発が Crohn 病の経過に有益な効果を与えるか否か臨床、X線および内視鏡的に検討した。

〔症例 1〕(31 歳、女性)は Crohn 病の再発で入院中、黄疸を来し GOT 289, GPT 662 と高値で、A 型肝炎に対する IgM 抗体が検出された。

4 週間後に肝機能検査正常化に伴い、下痢、発熱も消失、更に 4 週間後には肛門瘻は閉鎖した。Crohn's Disease Activity Index (CDAI) も改善し、内視鏡検査でも炎症、潰瘍は消失した。

〔症例 2〕(31 歳、男性)、〔症例 3〕(41 歳、女性)は黄疸を伴った B 型の急性肝炎であったが、経過は〔症例 1〕と同様で、肝機能検査の正常化後に Crohn 病の緩解が起こった。HBs 抗体が検出された。

〔症例 4〕(34 歳、男性)も B 型の急性肝炎で黄疸を来し、順調に肝機能検査も正常化した。CDAI は改善せず、Crohn 病は緩解しなかった。HBs 抗体は検出されなかった。

235 人の Crohn 病患者のうち、4 人が急性肝炎に罹患した。うち 3 人は肝炎に関連して劇的な緩解を示した。急性肝炎の型には無関係で 2 人は B 型、1 人は A 型であった。肝炎の経過は急性で、黄疸を認めた。4

例とも GOT, GPT, 総ビリルビンは急速に正常化した。急性肝炎を併発したにもかかわらず Crohn 病が緩解しなかった 1 例では HBs 抗体が検出されなかった点、他の緩解をみた 3 例とは異なっていた。急性骨髄性白血病や枯草熱で急性肝炎併発後疾病の改善する報告はあるが、Crohn 病ではない。HBs 抗体、あるいは A 型急性肝炎に対する IgM 抗体の産生された患者のみが緩解したことは、ウイルス感染によって引き起こされた免疫反応が何らかの役割を果たしていることが推測される。

急性肝炎併発によって Crohn 病の緩解が起こるという観察が多数例において prospective な研究にて確立されるなら、炎症性腸疾患の病原論や治療に関する研究に新しい局面が開かれることが期待される。

(愛知県がんセンター第 1 内科

松浦 昭 抄)